



神君伊賀越え

徳川家康が逃げた 京田辺を追う



織田信長の天下統一を目前に起こった本能寺の変。
このとき堺にいた徳川家康は身の危険を感じ、武装していない
34人の一行で、伊賀を越え、三河岡崎城まで逃げ帰りました。
これが徳川家康が人生最大の危機と語った「神君伊賀越え」。
この伊賀越えの経路に京田辺が含まれていると伝えられています。
今回は、徳川家康が伊賀越えで通った京田辺を追います。

今回お話を
伺った方



地域歴史研究家 伊藤文雄さん

本能寺の変から逃走まで

天正10年(1582)6月2日

未明、本能寺の変が起き、天下統一の直前に織田信長が明智光秀の謀反で自害します。前日6月1日、堺で見物を終えた徳川家康一行34人は、朝早く信長に会う為に京都に向かい、その道中の飯盛山西麓(四条畷)で、本能寺の変による信長の死を知ることとなります。武装しないままこのまま京都に向かっても襲われてしまうというので、家康一行は、伊賀を越えて、三河岡崎城まで帰還することを決めます。これが、家康人生最大の危機となる伊賀越え逃走の始まりです。

歴史の研究が続いている伊藤さんから、この伊賀越えの意外な登場人物を教えてくださいました。昔、テレビでも放送されていたアニメの主人公、忍者服部半蔵です。このルートを決めた理由は、その当時伊賀をまとめていた忍者服部半蔵が

居たからだと言われているようです。伊賀では前年に織田信長が天正伊賀の乱を起こしていたので、伊賀を通るのは不利なはずですが、土地勘のある伊賀甲賀の忍者200人が逃走を手伝ったそうです。その貢献により江戸城には服部半蔵の「半蔵門」がでぎ今の東京に名前が残ります。

**徳川家康が通った
京田辺のルート**

伊藤さんによると、3日間で、帰還したコースは、多数あり、話に尾ひれがつき、謎めいているようですが、信憑性の高い史料から判断すると左記のようになるということです。

飯盛(四条畷)→星田→穂谷・尊延寺(そえんじ)→宇頭城(うつぎ)→普賢寺・多々羅→興戸・草内(くさじ)→宇治田原・信楽・伊賀・白子浜→大浜・岡崎

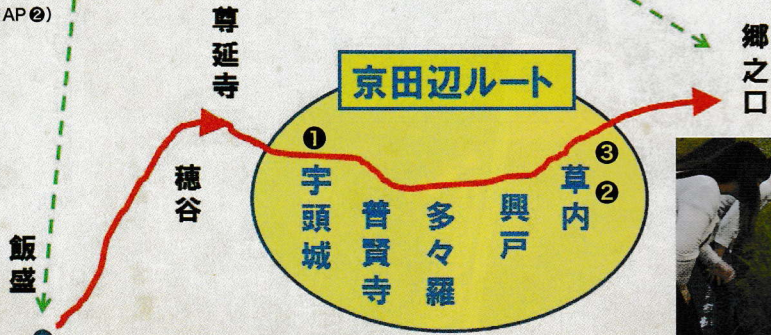
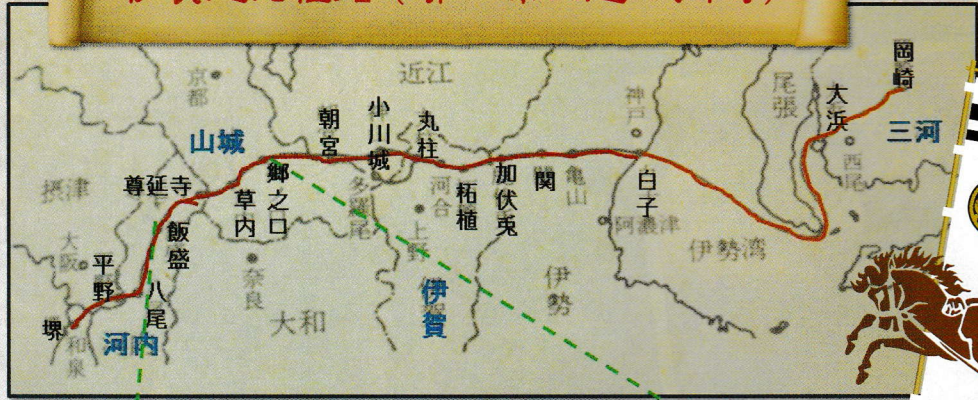
堺から岡崎まで210km。それを3日で行ったということなので想像を超える速さです。逃走ですから間道や抜け道を馬で行くのですが、山賊や野伏等が襲ってきますし、自分の知らない所を通るので非常に苦労します。もちろんき

▲普賢寺宇頭城。今は車一台分の道がありますが、当時はもっと険しい道だったのでしょうか(MAP①)



▲穴山梅雪の墓 地元の方から手厚く葬られた事がよくわかります(MAP②)

伊賀越え経路 (堺～京田辺～岡崎)



山城大橋のたもと、木津川運動公園がある場所にひっそりと碑があります(MAP③)▶



▲穴山梅雪が追詰められた地は、非常に見晴らしの良い場所になっています(MAP②)

家康一行の後には甲斐武田氏の家臣から寝返って信長側へついた穴山梅雪ら12人がいました。穴山梅雪一行は、一揆に追われ、飯岡の渡りで自害したとの記録があり、村人たちが葬ったといわれています。ちょうど今頃の梅雨の時

伊賀越えの証し 京田辺 穴山梅雪の墓

たちが手助けした訳ですね。

らびやかな格好をしていると目立つのであるべく目立たないように、そして何人も影武者を用意していきます。家康の逃走を知った明智光秀は要所を封鎖し家康を追い返しますが、家康側には服部半蔵がいたのと、各地の領主と知り合いの人物がいたのでなんとか進んでいきます。

家康一行はここ京田辺も通ります。京田辺には当時、地元の長老や有力者がいなかったため、土地の言い伝えではありますが、村人が家康一行を普賢寺から草内の渡しまで道案内したり、そこで舟を準備し、無事、京田辺を通過できたという話もあります。梅雨の時期の増水した川を馬を連れて渡ったり、逃走期間の食事や水の用意などを地元の人が手助けした訳ですね。

期で川も増水していたと思います。追いつめられて逃げられなくなった一行は自害します。京田辺の飯岡共同墓地には、実際に穴山梅雪のお墓があり、伊賀越えが起こった確たる証しとなっています。後に穴山梅雪の妻が甲斐(山梨)から夫と家来を葬ってくれたことに対してお礼を言いにきたそうです。

その後、家康一行は、宇治田原、信楽、伊賀、伊勢湾を渡り、5日の朝に三河岡崎城に無事帰還します。

この家康伊賀越えが成功した秘訣は「組織力」「情報伝達力」だと伊藤さんは言います。役割分担もはっきりしていて、何か指示を出せば末端まで届く体制ができていたのです。

実は、京田辺の伊賀越えの逃走路には、多くの魅力ある神社、寺、遺跡、建物、旧跡、伝承地、などがあります。今話題の伊藤若冲の住居跡と言われているところもあります。

こういった知られざる魅力あるところに興味を持つようなご案内をし、わかりやすい目立つ看板を建てるなどの工夫をすると、新たな観光資源となり、地元も盛り上がるのではないかと思います。

伊藤文雄さんの活動紹介

京田辺の魅力を発見する歴史講座・ウォークガイド「つつきはっけん」を開催しています。(9/27 伊賀越えウォーク実施)

講演・ガイドの問合せ

メール: dontuki@ric.hi-ho.ne.jp
TEL: 080-3134-8662
HP: <http://tutuki-net.jimdo.com/>



徳川家康が京田辺を通ったということは意外と知られていないと思います。これをきっかけに子どもたちにも地元でこんなことがあったということ伝えていきたいですね。



▲今年生誕300年を迎える事で話題の伊藤若冲の住居跡